

CENTRAL ALPS

正月山行



朝焼けの宝剣岳と空木岳



宝剣岳を後ろに



天狗岳と三ノ沢岳の夕焼け



木曾駒ヶ岳山頂より全景

個人装備

・12本爪アイゼン・ピッケル・バイル・8環・スリング・デジィー・ピナ・笛・ハーネス・スコップ・ツェルト・ナイフ・ゾンデ棒・スノーシュー・無線機・オーバー上下・羽毛上下・シュラフ&カバー&マット・テルモス・行動食・ヘッドライト・カメラ・トレベ・アンダー着替え・替え手袋・食料4食・ゴーグル・サングラス(黒/黄)・高度計・磁石・1/2500地図・マグカップ・ウイスキー・肴・スープ・スリッパ
行動スタイル

下---0P パンツ -0P タイツ -5本指インナー靴下 - ロングソックス - ニッカズボン - オーバーズボン - 登山靴 - ゴアスパッツ - ハーネス登攀用具
上---0P シャツ - チェックシャツ - ベスト - オーバーヤッケ - ゴア3ウェイ手袋 - 帽子 - サングラス - ピッケル

共同装備

大塚> 8mm ロープ 20 m・ラジオ・ビデオカメラ・バーナー&ガス・ファーストエイドキット

大倉> 一眼レフカメラ・コップ

大本> 8mm ロープ 30 m・コップ・GPS

注意点

- * アイゼン、スノーシュー、ロープ、スコップ・バイル類は素早く出せるように外付けする事。
 - * 極寒の中でのオーバー手袋を着けてのロープ結びなので家で練習する事。
 - * サングラスが凍り付けば速やかに取り替える(絶対に手袋でこすらない事)
 - * 汗をかかない程度に行動するので各自オーバーパンツ、ヤッケのファスナーで体温調整する事。
 - * 登山靴はたっぷり油を塗っておく事。
- 笛はピ~、と長く吹けば居場所確認。ピッピッピッピッピと小刻みに吹けば止まれの合図。



山々の目覚め



乗越浄土



和合山ルートへ

雲一つない最高の天気にも恵まれた正月山行

2005.1/2-3 中央アルプス登山

ついに富士山の左肩が真っ赤に染まってきだした。神々しい言葉がぴったりとあてはまる光景である。しかし相変わらず中岳周辺は強風が吹き荒れて雪煙が舞っている。少しずつ大きくなっていくにしたいが、辺り一面は金色に染まりはじめた、木曾駒ヶ岳、その後ろに聳える御獄山、遙かかなたの北アルプス連峰・・・全ての山々に光りがそそがれていく、これぞアルペングリュ・エンである。



1/2 快晴 気温 - 8 千畳敷 --- 和合山 --- 宝剣岳 --- 宝剣山荘

名神の彦根辺りから雪規制が敷かれてノロノロ運転。駒ヶ根の天気予報は晴れマークなのに・・・山は荒れているのか?、と不安がよぎる。

しかし、それとは裏腹に駒ヶ根は期待に答えてくれた。6時過ぎに駒ヶ根SAに到着。ここから見える朝日を浴びた中央アルプスのギザ

ギザ山の仙涯嶺がモルゲンロートと化してなんとも素晴らしい光景だ!。SAで朝食を済ませテルモスに緑茶をもらって、駒ヶ根のバスターミナルへ・・・、ターミナルは10cmほどの積雪量である。今年は天気がいいので車も多数止まっている。

2612mの千畳敷駅に着くと白銀の世界が広がっていて雲一つない突き抜けるような青空と黒々とした宝剣岳のコラボレーションがなんと



ふる装備でさあ出発だ！

も素晴らしい。気温は-8。早速にハーネス、無線機を装備しいつでも出せるようにザイルを外付けして、いざ出陣！。フル装備の総量はざっと20kgは軽くオーバーしている。今年は何故か中央ALパトロールの関門が非常にあまいではないか！。

それもそのはず今年は雪少なく千畳敷カールの各深部に

夏道が見えているではないか！、これでは雪崩の心配もほとんど無いのであまかったのだろう。

10:12

ほとんどの登山者はセオリー通りに千畳敷カールを登り詰めている。1パーティが極楽平を登っている。だが我々は計画通りに和合山への直登ルートにする。「千畳敷カール」の道標前で記念写真を納めたのち、全くのノートレースのダケカンバ帯のそばをいきなりの膝下ラッセルで進んで行く。



ダケカンバと宝剣岳

スノーシューを履いていても深いところで腰まで潜り、そうはたやすく登らせてくれない。私と大本は先頭交替しながら順調に進んでルート開拓して行くが、ターミネーター大倉がいつもとは裏腹にかなり遅れがちになっている。トレース通りに来てももまだ潜るので悪銭苦闘してもがいている。

年末の氷ノ山トレーニング通りに3人の先頭交代でラッセルして登ろうと言っていたのだが、いかんせん雪が深すぎたか。ダケカンバ帯を



ピッケルとパイルを刺して



和合山取り付きルート

ラッセルはこれからだ



スノーシュー - でキックステップだ！

た。ここで待つこと30分。ここから小尾根をトラバースして危険地帯のカールに入るので行動を共にするが、彼はものすごいバテようでもたもや遅れだす。

高度2710m付近で急カールの直登にさしかかる、ここでバイルを出



危険地帯からハイマツ帯へ

2人でハアハアゼイゼイと息咳きらしながら登り詰めた頃、全く大倉氏の姿が見えないので無線で応答する、しかし感度が悪いのか全くに応答がないので心配になってきて、ザックを降ろして様子を見に行きかけた時、下

の方で姿が見えだし

してピッケルと交互にシャフトを雪面にブチ込みながら胸近くまである雪を手で押し退け、膝で押しつぶしスノーシューで2度踏みしめて固めながら時間をかけてカールをトラバース気味に順調に二人で上がっていく。再びあまりにも大倉氏

が遅れているので無線で呼び掛けるが相当まいていのか、か細い応答が返ってくる。昼も過ぎてきて天気が良いので早くこの場を突破したいのだがそうもいかない。

ここでザイルを出して待つこと一時間。天候は相変わらず

ずドピーカンで雲一つなし。その間に大本に空身で30mザイルを持たせて上へのルートを作ってもらう・・・。

なんとか50m下に大倉氏が見えて来たが、相当にあずっているもようなのでこの場の突破は彼のザックをプーリーで荷揚げするしかないと思い、ダケカンバの枝とピッケルに支点を取り8カンで下降して行くと、彼はなんとか最難関を突破していたが念のためにハーネスにザイルロックして無事にスタカットピレーで登り上げる。

ここからもまだまだ気は抜けないがカールを避けて和合山に続く小尾根に取り付く、ハイマツ上



2700m 地点、稜線はもう少しだ！



4時間かけて稜線到着



宝剣への登り

部が雪と氷でミックスになり堅く締まっていますハイマツに頭を下げながらもアイゼンを食い込ませ、あと高度200mの斜度50度以上の急斜面を直登して無事に稜線にたどり着いた。

14:20

この4時間の登りは

相当にきつかった、得にターミネーター大倉のパテようは我々の比ではなかった。雪のラッセルを思い知らされたようだ、得に今回の雪は高山特有の泳ぐようなサラサラパウダーではなく、氷ノ山特有の水分を含んだ重い雪なので疲れも倍増なのは当たり前である。

しかし、雪が少ない。稜線に着くと夏道が出ていてまるで春の残雪のような感じである。ここにザックをデポして伊那前岳をピストンしようと思ったが、それよりも時間的なこともあり宝剣岳へのアタックに決めて、早速に今日の宿泊地である宝剣山荘へと足を向けた。

乗越浄土辺りから見上げる宝剣岳は猛々しく聳え立っていて見るもの



宝剣岳山頂

を圧倒させられる。

小屋入り口にザックをデポしてザイルを肩に巻き付けて登りはじめるが、やはり雪付きも少ないしトレースもあり、岩綾での鎖場トラバース以外は難無く山頂に登ってしまった。ここで記念写真！。

今日の行程はここまでにして、明日朝に中岳でのご来光、木曾駒ヶ岳への登頂の楽しみを残しておいて、暖かい小屋に入って取りあえずはビールで乾杯とした。

今日の泊まり客は15人ぐらいだろうか、それぞれに丸ストーブを囲んで雑談している。受け付けを済ませて早速2階の部屋に案内させられるとやはり窓は雪で囲まれていて冷蔵庫である。しかしよく見ると布団が羽毛に変



岩綾トラバース
後ろは木曾駒ヶ岳



真紅に染まる空を天狗が見下ろす



雲上の山荘



天狗荘と中岳

わっているではないか！、いつもは湿った固い布団で寒い思いをしていたのに、今夜は快適だろう。

16:30 夕日を撮るために小屋の外へ出る。

宝剣岳右に鉄人28号のような鼻をとんがらせた天狗岩、その右隣に真紅に染まった太陽が雲海を照らしたし山々のシルエットの上部が燃えているかのように赤々と染まりはじめている、それらが生き物のよう

に漂っている、素晴らしい光景である・・・これぞアーベンロードである。



雲海が朱に染まって流れていく



に漂っている、素晴らしい光景である・・・これぞアーベンロードである。

夕食は毎年のようにちょっとしたおせち風で食前酒が加えてあり各テーブルでは今日の素晴らしい天候に恵まれた話題が尽きないようだ。山荘の人も大晦日と1日は吹雪いて全くダメでしたと言っていた、またこんな天気にも恵まれた正月は何年ぶりだろうとも言っていた。現に私も2度ここで正月を迎えているがこんな天候にはお目にかかったことがない。たぶんこれからもお目にかかれぬ気がする。その為にも天気が急変して吹雪いたとき等はどのような体制、行動をとるか等のシュミレーションを怠ってはならない、と平日頃から頭に叩き込んでいる。

20:30

就寝・・・思ったとおりフワフワの羽毛布団はこの冷蔵庫の中でも暑いくらいに快適だったが、空気が乾燥しているせいか夜中にものすごくのどが乾いた。



朱に浮かぶ富士山と南アルプス連峰

が吹き荒れて雪煙が怒り狂ったかのように舞っている。幸いにもガスってないので行動に移れる。

東の空が朱に染まっていてその下に連なる南アルプス連峰のシルエットはひとときわ美しい。北岳の左におちょこをひっくり返したような形の富士山が優々とそびえている。この中央アル



岩にこびりつくエビのシッポ

プスは富士山の左肩からのご来光が有名で、でっかい三脚を担いだカメラマンがここぞとばかりに体感気温30 はある中を我々同様に足踏みしながら構えている。

大倉氏はこの時のためにニコンの20万円もする一眼レフカメラを持参してきているのだ。そのファインダー越しに見る景色はデジカメなど足下にも及ばない。

6:57 ついに富士山の左肩が真っ赤に染まってきだした。神々しいの言葉がぴったりとあてはまる光景である。しかし相変わらず中岳周辺は強風が吹き荒れて雪煙が舞っている。少しづつ大きくなっていくにしがたい、辺り一面は金色に染まりはじめた、木曾駒ヶ岳、その後ろに聳える御獄山、遙かかなたの北アルプス連峰・・・全ての山々に光りがそそがれていく、これぞア

1/3 快晴 強風 気温 - 15

宝剣山荘---中岳---宝剣山荘---中岳---木曾駒ヶ岳---宝剣山荘---乗越浄土---千畳敷

5:00 起床

3時頃から周りの部屋がゴソゴソと慌ただしい、こんなに早くからどこへ出かけているのだろうか。そのころから頭が痛くなりだし寝つ

けなかった。下に降りて真っ暗な食堂でコーヒーを湧かしている時も頭がガンガンと痛くやりきれない気持ちであった。たぶん脱水症状であろう、頭痛薬を飲むといくらかラクになったようだ。

6:10 中岳山頂からご来光を拝もうと外に出ると、ものすごい強風



雪煙あげ怒り狂う



朝焼けに染まる宝剣岳



朝焼けの御獄山



木曾駒ヶ岳山頂



ルペングリュ・エンである。

7時半から朝食タイムでもあるので小屋へと引き返す。

夕べの計画では木曾駒ヶ岳へ登ったあと、宝剣岳を越えて極楽平から下山しようと計画していたのだが、この強風でザックふる装備では宝剣への登りはこなせるものの下りに突風に煽られでもしたら、アンザイレンしていても容易ではないと考えて、この度は縦走でもないので無難に乗越浄土からの下山に変更した。

9:14 木曾駒ヶ岳山頂

食事を終えて再び空身で中岳から木曾駒ヶ岳へと登りはじめるが、今にも吹き飛ばされそうな強風は相変わらずものすごい轟音とともに雪煙を吹き上げている。大本の鼻水も一瞬に凍ってしまうほどの寒さである。空は快晴なので写真ではこの形相は全くもって分からないだろう。

ここから見渡す景色は3年前にきた山スキーの時よりも雪付きは少ないもののやはり2956mの頂上から見渡す360度の景色は絶景である。今シーズンは久しぶりにこの山頂から滑りたいものである。

9:52 再び雪煙巻あがる中を小屋に帰る。宝剣岳縦走はあきらめたので時間も十分にあるので小屋内で400円の紙カップコーヒーを飲んで体を暖める。昨日の宿泊客はすでにもぬけの空である。それより今日一番の宿泊客が来ていた。ロープウェイの始発から見てもとても登って来れる時間じゃない、千畳敷ホテルに夕べ泊まっていたのだろう。

10:35 下山開始。

乗越浄土から夏道通りに下って行くと今までの強風はどこへやらで、稜線を挟んでは全くと言っていいほどに南方面は穏やかな表情である。

千畳敷の雪原にたどり着くころ昨日の和合山の方を見上げると、



千畳敷カール



千畳敷カール

我々のトレースがまだうっすらと残っていた。

それにしても今日は大本のアイゼンがよく外れる、朝から4回目である。バンドが悪いのか、くくり方が悪いのか、もしこれで宝剣岳縦走していたかと思うと生きた心地がしない。大倉氏はプラブーツにワンタッチアイゼンなので最強である。

11:35 千畳敷駅到着。

55分のロープウェイで下り、温泉でゆっくりと汗を流し帰路についた。当初は下でテントを張り木曾駒ゲレンデで一日遊ぶ予定であったが、こんなにも素晴らしい天候に巡り合えて充実感一杯なのでゲレンデはとりやめにした。

PS.

本 当に今回は素晴らしい天候に恵まれて最高の正月山行であった。しかし、どんなに素晴らしかった山行でも振り返れば小さな反省点はいくらかでも思い起こされる。その反省点を改善してこそ次回の山行に生かされるのであって、これで良かったとは言いがたい。なぜなら大自然は今日の顔は二度と見せないのだから・・・これでもかっ！と言うくらいに万全にしている針の穴ほどのミスが最悪の事態を招かないとは言えない。

・・・素晴らしい景色を拝ませてもらった木曾駒の山の神に感謝、そして素晴らしき仲間乾杯・・・



千畳敷カールと空木岳



千畳敷カールと宝剣のクーロワール